かほく ワークシート

着工式で除幕された架橋事業完成予想図パネル＝15日、気仙沼市磯草

愛称は「鶴亀大橋」

―― 気仙沼・大島架橋着工

気仙沼市の離島・大島と本土を結ぶ宮城県の大島架橋事業で、架橋本体工事の着工式が15日、大島の磯草地区であった。2016年度までに構造部が完成し、18年度の開通を目指す。

架橋は長さ356㍍で、両端をつなぐアーチからケーブルを下げ、橋桁を支える中路（ちゅうろ）アーチ橋構造。海に橋脚を立てず、巨大な弧を描くシルエットが特徴。アーチ支柱間の長さ297㍍は東日本最長となる。海面から橋桁までの高さは32㍍。

式典には国、県の関係者、地区住民ら100人が参加。菅原茂気仙沼市長が「市民にとって40年以上の悲願。1日でも1カ月でも早い完成を願う」と祝辞を述べた。

架橋は大島の救急・防災や観光振興に期待され、震災復興のシンボルに位置付けられる。大島架橋促進協議会青年部の小松俊浩部長(40)は「本当に橋が架かることが実感でき、感激している」と話した。

架橋の工事費は約43億円、県道や五つのトンネル建設を含む総事業費は206億円。本土側の鶴ケ浦地区と大島の亀山を結ぶことから「鶴亀大橋」の愛称が付けられた。

（2014年11月16日河北新報朝刊）

①11月15日、気仙沼市の離島・大島と本土を結ぶ橋の着工式が行われました。2018年度の開通を目指します。記事を読んで、この橋の特徴をまとめましょう。

・橋の長さ…（　　㍍）
・橋の構造…（　　）
・海面から橋桁までの高さ…（　　㍍）

②気仙沼市民にとって40年以上の悲願が実現します。この橋が完成することによって、どんな良いことが期待されますか。

年　　組　　名前

（小学校中・高学年／社会科）